

1. 脳卒中一般の管理

1-2. 合併症対策

(1) 合併症一般(特に感染症)

推奨

1. 脳卒中は一般に呼吸器感染、尿路感染、転倒、皮膚損傷など急性期合併症の頻度が高く、発症前から機能障害がある例、重症脳卒中既往例や、高齢者例に特に合併症が多い。合併症があると死亡率のみならず機能的転帰も悪くなるので積極的に合併症予防と治療に取り組むことが推奨される(グレードB)。
2. 急性期から理学療法や呼吸リハビリテーションなどを積極的に行うことは、肺炎の発症を少なくするために推奨される(グレードB)。

●エビデンス

脳卒中急性期では合併症の頻度は高い¹⁻³⁾(Ⅲ)。

脳卒中後30か月の観察期間では脳卒中再発(9%)、痙攣(3%)、尿路感染症(24%)、呼吸器感染症(22%)、その他の感染症(19%)、転落(25%)〔そのうち重篤な外傷(5%)〕、褥瘡(21%)、深部静脈血栓症(2%)、肺塞栓症(1%)、肩の痛み(9%)、その他の痛み(34%)、うつ状態(16%)、不安(14%)、感情失禁(12%)、錯乱(56%)が報告され、既に機能障害を持っていた重症脳卒中の高齢者に合併症が多かった^{2, 3)}(Ⅲ)。3か月後の死亡の半数は合併症に起因するものであり、合併症があると死亡率のみならず機能的転帰も悪くなる¹⁾(Ⅲ)。合併症の特徴と時期を知っておくことと、危険度の高い患者の認識は有用であり²⁾(Ⅲ)、急性期から理学療法や深呼吸などを積極的に行うことで肺炎の発症を少なくすることができる⁴⁾(Ⅲ)。

引用文献

- 1) Johnston KC, Li JY, Lyden PD, Hanson SK, Feasby TE, Adams RJ, et al. Medical and neurological complications of ischemic stroke : experience from the RANTTAS trial. RANTTAS Investigators. Stroke 1998 ; 29 : 447-453
- 2) Davenport RJ, Dennis MS, Wellwood I, Warlow CP. Complications after acute stroke. Stroke 1996 ; 27 : 415-420
- 3) Langhorne P, Stott DJ, Robertson L, MacDonald J, Jones L, McAlpine C, et al. Medical complications after stroke : a multicenter study. Stroke 2000 ; 31 : 1223-1229
- 4) Raicevic R, Jovicic A, Marenovic T, Jevdjic J, Surbatovic M, Markovic L, et al. The early physical therapy in patients with ischemic brain disease in prevention of bacterial complications. Eur J Neurol 2000 ; 7(Suppl 3) : 98-99